

B7669

B-31



昭和二十一年四月二十七日

第十四軍憲兵隊參考書類綴



防衛研修所圖書館

B-32
昭和十七年起

參考書類綴






第十四軍憲兵隊本部

06
CAPTURED AT
MANILA
6 Feb 45

W.D.C. #
135708

24972

10

係	仕土	役尉副	員副	長隊
				

B-33

ビサヤ地方憲兵服務指示

細部ニ亘リ指示シタキモ是等ハ近ク會談ノ際開陳ス
 ヘキラ以テ目下着手シアル治安確立工作上緊急トスル事
 項中大方針ニツキ所懐ヲ陳述セルヲ以テ必ず實踐
 セムコトヲ望ム

一 異民族戰軍紀ノ確立ヲ目下ノ急務トス

軍ノ對抗日分子戰ハ元ヨリ戰鬪ナルヲ以テ敵ヲ
 如何様ニスルモ敢テ文句ナキ處ナルモ現代ノ戰

争ハ所謂總力戰態勢ヲ執ルヲ要シ唯ニ敵ノ

戰力破摧ノミナラス、我方ノ建設戰ヲ伴フモノ

ナリ

教育 訓官止

此ノ建設戰コソハ現代戰ノ特徴ニシテ建設戰ノ成否コソハ本大東亞戰ノ最後ノ勝利ヲ決スルモノナリ 故ニ我々ハ武力戰ニ於テ敵ノ戰力ヲ破摧スルト同時ニ建設戰ニ於テ我戰力ヲ培養スルヲ絶対必要トス 勿シテ建設戰ニ絶対現地民ノ協力ヲ必要トスルモノニシテ之ナクテハ比島ノ物資等到底確保シ得ルモノニアラズ

然ラバ現地民ノ協力ヲ得ル手段如何

(1) 排米依日心ノ昂揚

(2) 日本人コソハ比島人ト手ヲ握リ相協カスヘキ民族ナルコトノ認識附與

ハ比島ニ於ケル建設戰ニ於テ絶対必要ナル要件トス

勿シテ第一項ハ屢次ニ直ル皇軍ノ戰捷ニヨリ米國ノ到底我敵ニアラサルコトヲ逐次認識シツツアルヲ以テ追々了解シ來ルベキ也 第二項ニ於ケル日本人手ヲ握ル点ニ於テハ尚幾多ノ難色ヲ示シアルノミナラズ 狀況ハ仲々好轉セス此ノ原因ハ

種々アランモ隊長ノ考ヘル處ニテハ次ノ二点ニアリ
即チ

(1) 日本軍ハ所謂無茶ヲヤリ恐ロシキモノナリトナ

スコト

(2) 日本軍ノ比島民族性ヲ把握不可

第一項ニ就キテハ比島人ノ大部カ抱キアル感情
ニテ抗日分子ガ抗日意識ヲ抱クニ至リシ原因ヲ探
求シ、郵便物ノ檢閲ヲ實施スル際等明瞭ニ其
ノ事象ヲ把握スルヲ得ルモノナリ

第二項ハ第一項ト因果關係ヲ有スルモノニシテ第三項
ノ原因ニヨリテ第一項ノ結果ヲ生シタルモノト判断
スルガ比島人ノ間ニ第一項ノ如キ皇軍觀ヲ抱カ
レメアル間ハ治安ノ確立ト建設戰ノ成果ハ到底
望ミ得ベクモアラス

然ラバ第一項ノ記載ノ如キ皇軍觀ヲ拂拭セシムル
方策如何ノ問題ナルガ是ニハ皇軍ハ將兵共(在
留邦人共)對異民族戰軍紀ヲ確立スルニ在リ換
言スレバ無茶ヲヤラス——日本軍ハ必ズシモ恐ロシキ

存在ニアラザルコトヲ皇軍一自ラ之ヲ比島民ニ示
スニアリ

是カ屬將兵ノ注意スヘキコト次ノ如シ

(1) 殺ヨリ利用

戦闘ニ於テ敵味方トナリ殺スカ殺サルカノ時
ハ元ヨリ問題外ナルモ戦闘後ニ於テ或ハ檢舉
檢索等ニ於テ得タル抗日分子ヲ軍律會議
ニカケルコトナクムヤミニ嚴重處分スルカ如キ衆
人環視ノ中デ斬首シテサラスカ如キ、又ハMGハ

授射スルカ如キ、拷問ニテ殺スカ如キハ最モ不可
ニシテ將兵ハ勢ノ赴ク處時ニ斯ル暴擧ニ出ツ
ルコトナシトセザルカス様ノ態様ニテ一ノ比島人
ヲ殺害スル時ハ却ツテ十人ノ抗日分子ヲ作ル
モノナリ

比島ノ民族性ハ支那人ト異ル、支那ニ於テモ斯
様ナ慘虐行爲ハ益々抗日意識ヲ煽リタルモ
ノナルカ比島人ノ民族性ハ支那人ト異リ氣弱キ
所アリ且數度ノ異民族統治ニヨリ異民族ノ

侵攻ニハ苦キ且苦シキ經驗ヲ有シアリテ非常ナル不安ヲ抱キアル特異性ヲ有スルヲ以テ少シノコトモ敏感ニ感シ恐怖觀ヲ抱クモノナリ

(2) 無茶ナ放火ハ止ムベシ

匪賊ガ占據シアリシトノ理由ニテ放火シ抗日分子ヲ逮捕ニ行キ居ラザリシトノ理由ニテ放火スル等ノ事例アリシガ之亦不可ナリ

(3) 強姦ハ絶對不可

女尊男卑ノ思想アル比島人ニ於テハ最モ敵愾

心ヲ抱クモノナリ

(4) 掠奪

物資益々不足シアル昨今鶏一羽ノ掠奪モ非ナル反感ヲ抱カシム

(5) 殴打ハ嚴禁

比島人ハ殴打セララルナラ(殊ニ衆人ノ面前ニテ)殺シテ呉レト云フモノアリ 殴打ハ最モ侮辱觀ヲ抱カシムル民族的特性アリ 然ルニ將兵ハ殴打ハアマリ大シタコトニ考ヘアラス 斯ル民族性ノ研究

不十分ニ起因スル反感極メテ多ク憂フベキ事
象ナリ

(4) 侮辱的行為ノ發止

檢問中ノ兵力娘ノ鼻ヲ彈キテ自殺未遂ヲ
生シタル事例侮辱的言辭ヲ弄シテ反感心
ヲ抱カシメタル事例、婦人ノ裾ヲ故意ニ捲ク
リテ侮辱觀ヲ與ヘタル事例等々多クアリ、斯ル
コトが案外治安上ニ惡影響ヲ與ヘルモノナリ
以上數項ヲ舉ケタルが是等ハ僅カニ其ノ一例ニシ

テ民族性ノ相違ヨリ生ズルトラブルハ枚擧テ述
アラズ、而シテ是等ノコトが、結局日本軍ニ對スル
恐怖觀トナリ米國ハヨクウタトナシ、米軍ノ再來ヲ
信ジ抗日意識ヲ煽ルモノナリ

二 憲兵ノ對策

一 憲兵ハ部隊ニ配屬サレアリト雖モ苟シクモ皇軍
ニ不利ナル原因ヲ作ル者ニ對シテハ看過セズ
常ニ部隊長ト連絡シ將(殊ニ若イ中隊長以下)
兵ニ對シ上記述ノ如キ缺陷ヲ犯サシメザル如

ク真^①剣^②ニ指道すスベシ斯ル行爲ヲ爲シツツ
討伐シ抗日分子ヲ檢舉スルモ治安肅正ハ
期待シ得ザルノミナラス却テ悪化スルモノナリ
2. 民衆ヲ敵トスベカラズ

民衆ヲ離レテ憲兵ナシ 民衆コソ最モ利用
スベキモノナリ

今憲兵ノ味方ハ少数ノ密偵ナリ 是等ノ活動
ハタカカ知レアリ 一般民衆ガ憲兵ノ治安維持ニ
協力スルニアラザレバ 眞ノ治安確立ハ不可能ナリ

從テ一般民衆ニ對シ徒ラニ憲兵ノ恐怖觀ヲ
與フコトヲ避ケ少クトモ憲兵ハ公明正大比島民
衆ノ幸福ヲ希フモノナルコトヲ認識セシムルヲ要ス
是カ爲憲兵ハ

(1) 拷問ヲ止ムベシ

明瞭ナルヲ以テ理由ヲ記述セズ

(2) 取調ニ於テモ教化ヲ怠ルベカラズ

取調ハ犯罪事實ノ追求ニミ 終始スル傾
向アルモ異民族戰ニ在リテハ取調ハ實ニ教化^③

ナリ 軍律會議ニ於テ一死ニ處セラルル者ニ
 對シテモ 日本ト手ヲ握ラザリシトガ誤ナリ
 コトヲ認識シテ死ンデ行ク様ニ教化スルヲ要
 ス 況シテ無罪釋放スル者ニ對シ、或ハ微罪
 者ニ對シテハ十分ナル教化ヲ行ヒ喜ンデ憲兵
 ニ協力スル如ク教化スルヲ要ス 之等ノ者ノ
 ナス對民衆宣傳ハ非常ナル效果アリ
 「マニラ」ニ於テハ斯ル教化ニヨリ非常ナル憲
 兵協力者トナリシ比島人アリ

(3) 七擒七縱ヲ貴シトス

憲兵ヲ抗日分子ヲ檢舉シ軍律ニ照ラス眞
 ノ目的ハ治安ヲ維持シ民衆ノ安寧ト建
 設戰ノ成功ヲ計ルニ在リテ檢舉トモ軍
 律送致ト稱スルモ皆治安確立ノ爲ノ手段
 ニ過キズ 要ハ治安確立が大目的ナリ 果シ
 テ然ラバ隊長ノ提示シタキ一案ハ七擒七縱
 ナリ 人、或ハ之ヲ稱シテ微温的ナリトスルサ
 ンモ要ハ殺ヲ減少シテ教化ヲ主トセントスルモ

ナク凡ソ一人が處刑セラルレバ其ノ親子親戚等
 少クモ十人ノ抗日分子ヲ作ル虞アリ目下ノ處
 刑ヲ主眼トスル肅正方策ノミニテハ却テ抗
 日分子漸増ノ傾向ニアルヲ恐ルルモノナリ
 隊長ノ提示スル七擒七縱トハ一度檢舉シタ
 ル者ハ之ヲ取調(教化)ベタル結果飽迄抗
 日意識ヲ清算セズ日本ヲ敵トスル者ハ格
 別然ラスシテ日本ト協力ヲ誓フ者ハ放遣ス
 ルニ在リ勿レテ此ノ者更ニ誓言ヲ破ツテ抗

日分子トナリシ時ハ再度捕ヘテ教化シ日本ト
 協力スルニ於テハ放遣ス勿レテ眞ニ濟度難
 キ者ノミヲ軍律ニ照シ他ハ勉メテ利用ヲ
 圖リ夷ヲ以テ夷ヲ制スルニ在リ此ノ方法
 ハ一見文治的理想主義ノ如キ觀アルガ彼ノ
 劉備ニ仕ヘシ孔明が蜀ニ於テ異民族統治
 ニ用ヒシ政策ニシテ大成功ヲ納メ五丈原ニ
 病歿スル迄異民族統治ノ大方針トシ克ク
 劉備ヲ輔ケテ中原ニ覇ヲ成サシメタル方策

ニシテ目下ノ比島民ニ對スル統治政策トシテハ
處斷ノミニテハ其ノ事件ノミハ處理シ得ヘキ
モ民衆ノ抗日意識ハ處理シ得ザルモノト確
信ス

三、所謂内地式分隊觀念ヲ脱却シ分隊長以下ドン
部隊ニ隨伴シテ野戰的ニ活動スルヲ要ス
固ヨリ敵兵匪ノ蠢動期ニ於テハ全カヲ傾注討
伐成果ヲ期スヘキナリト雖モ敵兵匪ニシテ或時ハ
表面平靜ヲ裝ヒ秘カニ兵匪ノ再建、或ハ指令

シテ戰線統一ヲ策シ周到ナル計畫的不進行
動ニ出スルヲ常トシ憲兵活動ノ要求セラルル處
今ヨリ大ナルヤシ 表面的事象ニ幻惑セラレヌ
小康ニ安ンスル事ナク終始一貫不斷ノ努力ヲ
要望ス

四、防禦的心裡ヲ脱シ攻撃精神及企圖心ヲ旺盛
ナラシムルコト

最近ニ於ケル比島各地ノ匪情ヲ徵スルニ秘カニ
指令シテ戰線統一ヲ策シ我ノ意表ニ出ザル場

合無シトセス（ゴモロ討伐隊或ハゴミントロ討伐隊等ノ事例）

憲兵ハ特有ノ偵諜能力ト警察技術ヲ以テ積極的各種事情ヲ達觀シ創意工夫其ノ成果ヲ期スルヲ要ス

五、匪首ノ逮捕ニ全力ヲ盡スコト

本項ニ關シ屢々示達セシメアルトコロナルカ憲兵自ラ能力ト特性トヲ認識シ軍隊トノ協同ヲ適正ナラシムルハ勿論ナリト雖モ如何ナル場合ニ於テモ其ノ實質ハ憲兵力中軸ヲ爲スベキヲ銘肝スルヲ要ス

六、層匪情ヲ審カニスルヲ要ス

島内交通復活化及ヒ各地兵匪ノ連繫巧妙化ニ隨ヒ從來ノ如ク当地的情報處理ヲ許サバルモノアリ

固ヨリ分隊管内ニ於ケル全的匪情ヲ明察スルハ勿論尤右各機關ト密接ナル連繫ヲ保持シ「水モ残サヌ」態勢ヲ強化セザル可カラズ

此ノ點更ニ努力ノ餘地アリ

七、諜報網ノ整備擴充

憲兵活動ノ根本ハ諜報網ニアルト論ノ餘地ナシ然ル

ニ往々ミテ限リアル移動謀者網ヲ以テ足レリトスル向
ルハ極メテ心細シ速カニ固定移動謀報網ノ整備
擴充ヲ遂ケ之カ活用ヲ期スベシ

ハ匪首逮捕ノ為メノ部署ヲ適正ナラシムコト

特ニ軍隊配置トノ關係ヲ考慮シ檢問所ノ
選定連繫等計畫的實施ヲ要ス、奈良兵團配
屬憲兵ニ於テハ憲兵主體トシテ准尉又ハ曹長ヲ長トシ
概テ憲兵五名通譯一ニ乃至四名配屬歩兵五名
親日比人十乃至二十名ヲ以テ一檢索隊トスルニケ

隊ヲ編成シ極テ廣範ナル地域ニ於テ約十日間
匪首ノ檢索ヲ實施シ速捕シタル適切ニ事例アリ

凡治安ヲ紊ル原因ヲ軍自身作ラサルコト

ハ嚴重處分ノ禁止

嚴重處分ハ原則トシテ絶對禁止スルトコロニテ交
通其他眞ニ己ムヲ得サル事情アリ且ツ本職ノ認
可シタルモノト雖モ其ノ實施ニ於テ細心ノ注意ヲ以テ
臨ムヲ要ス

ニ燒打暴行ノ嚴禁

米國、比島統治初期ニ於テ經驗セル事象ヲヨリ
 スルモ明瞭ニシテ作戰上一部民家ノ燒却、如キ
 場合ニテモ相當處置ヲ講セザル可カラズ
 即チ民心把握ハ異民族統治ノ根本要素ニシテ前
 二項ノ如キ行爲アラカ如何ナル宣撫モ討伐モ何等
 ノ効果無キ事ヲ大イニ戒心スベキナリ

尚前二項ハ例示ニ過ギズ憲兵ノ取調ニ當リテモ常ニ
 教化的取調ナルコトヲ銘肝シ「憲兵ノ手中ニ
 入りタモ、總テハ親日ニ轉向スル如ク努力ヲ望ム

一、憲兵長ハ飽迄陣頭指揮タルコト

匪首ノ所在判明シ軍隊指揮官ノ意圖決定
 セル以上該方面ニ率先出勤自ラ指揮シ其ノ盛果
 ヲ期スルヲ要ス

二、敵勢力圏内ニ行ハレル官公吏ノ通敵事犯處理ヲ
 妥當ナラシムルコト

往々ニシテ内地式觀念ヨリ「官公吏ニシテ云々ト徒ラニ
 昂奮スル向アルモ憲兵ハ飽迄冷静ヲ保持シ實
 情ヲ審査シ適正ナル法ノ運用ヲ期スヘキナリ

一、敵潜水艦（連絡所）ニ關スル適確ナル情報ヲ得ルコト

情報ニ依リハ比島某地ニ敵潜水艦ノ連絡所アリト思ハシムルモノ尠カズ其ノ有無ノ真相確メテ度

三、兵匪ノ逃走狀況警戒ノコト

一、四、マッカーサー大將及他地方トノ連絡有無事實究明ノコト

但シ逆用可能ノ有無ヲ考慮スルヲ要ス

一、五、ピサヤ地方ノ地勢、交通上ノ關係ヨリ憲兵長ノ各地分隊ニ對スル過度ノ統制ハ有害ナルヲ考慮シ服務ノ成果ヲ期スルヲ要ス

右指示ス

昭和七年十一月十五日

比島憲兵隊長 長濱 彰